

令和6年8月7日

令和6年度第5回教育委員会定例会会議録

鹿児島県教育委員会

令和6年度第5回教育委員会定例会会議録

日時 令和6年8月7日(水)
13時30分～14時50分

場所 教育委員会室

出席者
地頭所教育長
原之園委員
堀江委員
馬場委員
桶谷委員
中村委員

(事務局職員)

川畑 副 教 育 長
紺屋 教育次長兼生徒指導総括監
森豊 総務福利課長
中島 教 職 員 課 長
水島 義 務 教 育 課 長
川上 高 校 教 育 課 長
萩之内 特 別 支 援 教 育 課 長
西小野 文 化 財 課 長
泊 総 務 福 利 課 企 画 監
立森 高 校 教 育 課 指 導 監
森田 高 校 教 育 課 参 事
中村 総 務 福 利 課 長 補 佐

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第1号 令和6年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）の決定について</p> <p>議案第2号 学校職員の懲戒処分について</p>	<p>令和6年度の地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰（ポスター原画・標語）の被表彰者（校）を決定しようとするものである。</p> <p>学校職員の非違行為について、教育公務員としての責任を問おうとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p> <p>特記事項なし</p>	<p>決定</p> <p>決定</p>

会 議 要 旨

1 開会

2 会議の公開等について

議案第1号，議案第2号及びその他(5)から(7)までは，非公開で審議する旨教育長から発議があり，全会一致で議決された。

3 令和6年度第4回教育委員会定例会会議録について

令和6年度第4回教育委員会定例会の会議録について，承認する旨，教育長から発議があり，全会一致で議決された。

4 その他

(1) 令和7年度鹿児島県教育委員会職員（埋蔵文化財専門職）採用選考試験（第1次試験）の実施状況について

－ 採用選考試験（第1次試験）の実施状況報告について －

〈総務福利課長が資料に沿って説明〉

〈質疑等なし〉

(2) 令和6年度全国学力・学習状況調査結果について

－ 令和6年度全国学力・学習状況調査結果について －

〈義務教育課長が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(原之園委員)

自己肯定感やウェルビーイング，ICTの活用については全国を上回っている。今後の対応として，学級での生徒間の話し合い活動や対話的，協働的な学びをいかに深めるかということが課題であると思うが，義務教育課としてはどう捉えているか。

(義務教育課長)

仰るとおりである。これまでも，学習者の主体的な学び，個に対応した学び，協働的な学びに関する取組を進めているところである。今回，文科省がまとめた全国の子供たちの実態を踏まえた分析結果によると，学力に係る内容と，質問調査書を踏まえたクロス分析の調査も別途出ており，個別最適な学びや協働的な学びを行っている児童生徒と行っていない児童生徒を比較した場合，明らかに平均正答率も違っていたというデータも出ているので，引き続き指導助言等をしていきたい。また，学校訪問をした際に，小学校は授業の変化を感じるが，中学校はもう少し伸びしろがあると感じている。方向性を引き続き示し，具体的な方法も併せて伝えていきたい。

(原之園委員) 承知した。今後の課題として、引き続き取り組んでいただきたい。

(堀江委員) 改善が見られている点もあり良かったと思うが、児童生徒質問調査で、自己肯定感が全国平均に比べてかなり低いという結果がずっと継続しており、変化が見られない気がしている。原因の分析やその数値を上げるために、学校への指導、研修会実施等の対応はしているのか。また、この自己肯定感が全国的に高い県はあるのか。

(義務教育課長) 自己肯定感については、自己肯定感と学力は、相関するというデータもあり、高めていく必要があると考えており、研修の中でも分析結果を踏まえながら伝えている。生徒指導提要の改訂があり、その中で自己肯定感に関する内容も含まれているので、その必要性について伝えているところである。具体的な高め方としては、資料の②にあるように、学校においては先生が認めてくれる、褒めてくれるといった経験が有益であると考えている。小学校の結果が下がっているのが、残念であるが、中学校の結果は前年度よりも増えてはいるので、良い傾向だと捉えている。家庭での関わりも大事であるので、併せて取り組む必要があると考えている。児童生徒質問書の結果については、全国平均は公表されているが、他県データは公表されていないため把握していない。

(馬場委員) 自己肯定感について、自己肯定感の前提は、「自己受容」であると思う。項目に「良いところを認めてくれる」とあるが、子供たちが良いところを認めてくれていると思う数字が少ないのであれば、裏を返すと、自分は良いところがない、それが認めてもらえていないと感じているということだと思う。先生から良いところだけ認められる。という関わり方だと、なかなか自己肯定感が上がっていかない。だから、前提には「自己受容」があり、良いところも悪いところも、先生が受けとめてくれるということが大事だと思う。そこに関連して、③の「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という項目の数字がとても低いと思う。先生方と子供たちの信頼関係が薄れている、信頼関係を結びにくいところがあると感じた。④の「学校に行くのは楽しい」という項目については、例えば友達がいて楽しいということもあると思うが、自己肯定感の前提として、先生、親も含め、周りにいる大人が子供たちをしっかりと受けとめるということが大事だと思うので、今後考えていく必要があると思う。

(義務教育課長) 御指摘のとおりである。結果に着目して褒めることも大事だが、結果がでていない場合、プロセスを認めることも必要だと思う。まず「受容」、あなたのままでいいんだよ。という姿勢、存在を認める、受入れる、そして授業だけではなく

様々な学校の取組の中で価値づけをしてあげることにも必要だと思っている。引き続き学校に伝えていきたい。また、この質問調査は、生徒たちが答えているので、これが生徒たちの生の声であるということ現場にも伝えていき、心理的安全性に配慮した居心地が良い学校にしていきたいと思っている。

(中村委員)

自己肯定感が、中学校は昨年に比べるとかなり上がってきており、これには要因があると思うので、分析していただきたい。これは単年度というより、継続して時系列の中で上がっていくことが大事だと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。

一方で、⑧、⑨等は「学校で学ぶ」ことが、嬉しさや楽しさつながっていけば、「学校に行くのが楽しい」という項目について、「子供同士での楽しさ」に学ぶ楽しさが加わることになり、さらに数値が上がると思うので、引き続き取組をお願いしたい。

(義務教育課長)

この全国学力学習状況調査自体は、対象が小6と中3である。この調査以外に、小5、中1、中2を対象とした鹿児島県独自の学力学習状況調査を実施しており、同じく質問調査を実施している。その結果も活用して、どこで上がったのかなど分析をしていきたい。また、不登校対策のためだけではないが、「授業がわかる」「学校が楽しい」というのは特に大事なキーワードであるということ、様々な場面で取り上げているので、生徒指導班とも連携しながら、引き続き言い続けて、より浸透させたいと思う。

(桶谷委員)

「PC、タブレットなどICT機器をほぼ毎日使用した」という項目について、特に中学校の伸びは素晴らしいものだが、この結果につながるような取組をされたのか。

(義務教育課長)

数値が上がったのは、純粋に嬉しく思っているが、まだまだ伸びしろがあるので高めていきたい。これまでも、様々な研修会を実施し、そうしたあらゆる機会を捉えて、ICTの活用について、先生が使わなくても、子供たちに使わせ、その中で適切な使い方を理解していくのだ。ということも伝え続けてきた。また、具体的な活用方法の研修や、主に教育センターや鹿児島市で、苦手な人向けの研修を用意したりできているのが成果につながっていると思う。また、GIGAも入ってきて、だんだんと使う人が増えてきており、その良さを実感しながら使用されるようになってきたと捉えている。

〈質疑終了〉

(3) 令和7年3月県内公立及び国立中学校等卒業予定者の進路希望状況調査について

— 令和7年3月県内公立及び国立中学校等卒業予定者の進路希望状況調査について —

〈高校教育課参事が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

- (原之園委員) 10月の募集定員公表に向けて、9月定例会で検討との説明であったが、ほかにどんな作業をされるのか。
- (高校教育課参事) 今回の調査結果を踏まえ、地域の学校の状況も再確認して、今後の生徒数の増減等を勘案し、策定したいと考えている。現在行っている「学校の魅力化」についても継続して取り組み、学校の方にも支援していきたいと考えている。
- (原之園委員) 2月には、この揺れ戻しや志望校の変更などで、この数字が変わってくる可能性もあるわけだが、そこも勘案するという理解でよいか。
- (高校教育課参事) 二次選抜等のことも含め、全体を考えて策定したいと考えている。
- (馬場委員) 資料のその他の604人の中に、不登校の方は何人ぐらいいるのか。
- (高校教育課参事) その他の内訳は不登校ではなく、「未定」という回答で学校の方から提出されている。未定の生徒が118人である。その他の内訳で一番多いのは通信制課程である。
- (馬場委員) 通信制課程は何人ぐらいか。
- (高校教育課参事) 372人で昨年よりも56人に増えている。
- (馬場委員) 不登校の方は、出席日数の関係で私立高校を目指す方も多いと思うが、不登校で進路が決まっていない、方向性に迷っている家庭も多いと思う。そのような場合に、通信制や様々な方向性があるということ、中学校の方からも何らかの形で情報を出していただけると、保護者も安心すると思うので情報提供をお願いしたい。
- (高校教育課参事) 義務教育課にもつないで、連携していきたいと思う。

〈質疑終了〉

(3) 令和7年度公立高等学校入学者選抜について

- － 令和7年度公立高等学校入学者選抜に係る学科併願について －

〈高校教育課指導監が資料に沿って説明〉

〈質疑〉

(原之園委員) この制度を適用した時、推薦入学者選抜において、合格できる者がどの程度出てくる想定なのか。

(高校教育課指導監) 県教委において、想定をしようと試みたが、今回から自己推薦入試の導入が決まっている。どれだけ自己推薦入試の受検者が入ってくるか現時点では見えず、想定ができていない。

(原之園委員) 承知した。生徒が様々な入試のしがらみの中で何とか希望する高校に入学し、いきいきと学校生活を送って欲しいと思う。

(高校教育課指導監) 県教委としては、まず自己推薦の導入によって、受検者が増えるという点に、非常に期待しているところである。1人でも入学機会を広げることができる、進学先の選択肢を広げることが可能になるというような趣旨で今回学科併願という制度を設定したところである。

〈質疑終了〉

5 議案

議案第1号 令和6年度地域が育む「かごしまの教育」県民週間表彰ポスター(非公開)ター原画・標語)の被表彰者(校)の決定について

議案第2号 学校職員の懲戒処分について(非公開)

6 その他

その他(5) 地域振興局及び支庁設置条例の一部改正に伴う対応について(非公開)

その他(6) 楠隼校の共学化等に向けた取組について(非公開)

その他(7) 特別支援学校教育環境改善推進協議会 協議の経過について(非公開)

書面報告 令和7年度県立中学校・県立高等学校・県立特別支援学校使用教科書の採択結果について

〈質疑〉

(原之園委員) デジタル教科書は今後どうなるのか。

(高校教育課長) デジタル教科書については、それぞれの学校で検討されており、令和6年度に学習者用のデジタル教科書を採用してい

る学校は3校，指導者用のデジタル教科書の採用は28校である。来年度に向けて令和7年度の学習者用のデジタル教科書採用予定の学校が6校，指導者用のデジタル教科書の採用予定の学校が17校である。現時点の調査における学校の回答なので，今後変わってくると思う。また，採用している学校についても，1教科又は1科目だけ採用していたり，複数教科採用していたり，内容にばらつきはある。

(原之園委員) 将来的にはこのデジタル教科書に集約されていくのか，併行していくのか。

(高校教育課長) 当面は併行であると考えている。デジタル教科書の場合は，少し高額なため，急速に普及するには金額的な面で課題となっている。

〈質疑終了〉

7 閉会